



## ROCK and GEM

### 岩石と宝石の大図鑑

岩石・鉱物・宝石・化石の決定版ガイドブック

翻訳 青木正博

誠文堂新光社・発行、284×218mm判

360p, 4,571円(税込)

2007年4月10日発行、ISBN978-4-416-80700-2

ROCK and GEM (ロナルド・ルイス・ボネウィッツ著、2005年)が、この度、日本語版として出版されました。本書では、岩石、鉱物、化石の標本を主に取り上げて解説しています。翻訳に際しては、青木正博氏が自身の岩石・鉱物学の専門性を存分に発揮しつつ、初心者でも理解が深まるよう、平易な記述に十分配慮した内容となっています。なお、翻訳の一部は、その専門性を考慮して、中島 礼，利光誠一および目代邦康の各氏(いずれも産総研)が、担当しています。

本書は、地球科学の入門書ですが、単に分類学的に標本の特徴を記述するだけではありません。視野は、宇宙と地球の誕生から始まり、岩石鉱物の由来方から、人間による利用の歴史まで、盛りだくさんです。

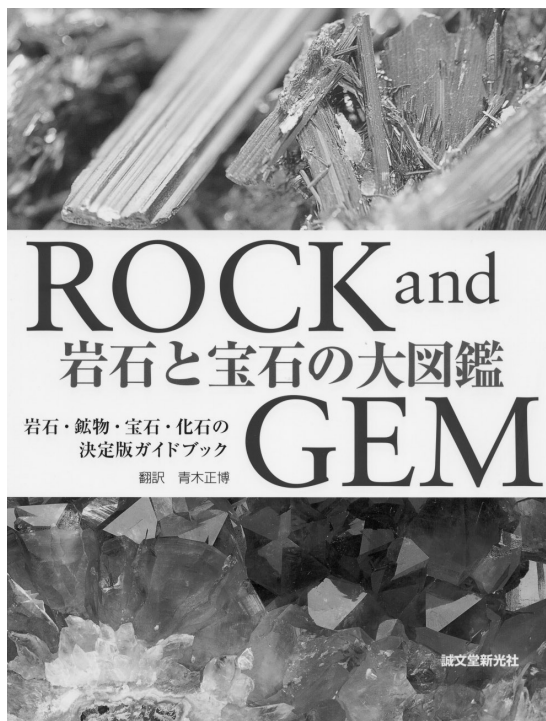
以下に本書の内容を紹介します。

宇宙と地球の起源(宇宙の生成、地球の形成、地殻、岩石と鉱物の収集)

岩石(岩石の生成、岩石のタイプ、火成岩、堆積岩、変成岩)

鉱物(鉱物とは何か? 鉱物の鑑定、鉱物の随伴関係、結晶とは何か? 結晶系、晶壁、ジュムストーンとは何か? 宝石の採掘、宝石のカット、元素鉱物、硫化鉱物、硫酸塩鉱物、酸化鉱物、水酸化鉱物、ハロゲン化鉱物、炭酸塩鉱物、リン酸塩鉱物、砒酸塩鉱物、バナジン酸塩鉱物、硼酸塩鉱物および硝酸塩鉱物、硫酸塩鉱物、クロム酸塩鉱物、タングステン酸塩鉱物、モリブデン酸塩鉱物、珪酸塩鉱物、生物がつくる宝石)

化石(化石はどのようにしてできるのか、化石記録、植物、無脊椎動物、脊椎動物)



用語解説、索引

本書の真骨頂は何と言っても、オールカラーで美しい写真とイラストが、ふんだんに散りばめられている点です。石を通して、自然の織りなす造形美を一堂に会し、さながら百花繚乱の趣です。そのため、視覚を通して、読者に岩石、鉱物、化石の魅力を余すところなく伝えてくれます。さらに、ユニークな点として、多くの標本を手のひらとの対比で示し、読者が直感的にわかりやすいよう配慮しています。そもそも私たちは、きれいな岩石や宝石を見つけたとき、まず手にとって触れてみたいと思うでしょう。次に、細かいところが一体どんな形や色をしているのか? と思いつつ、標本にぐっと目を近づけて観察してみたくなるでしょう。本書は、そんな私たちの探求心を巧みに把握しており、ページをめくっていくと、本物の岩石や宝石を、あたかも手にとって観察しているかのように思わ

せてくれます。掲載された写真の多くは、細部(例えば結晶表面の光沢、条線、成長縞および割れ目など)まで、よく見えるようこだわっていて、迫力満点です。

本書では、また、どんな石が、どんな理由で、そしてどんな目的で利用されているかが、ほとんどの鉱物種について紹介されています。そのため、地下資源の大切さを理解出来ます。

宝石については、その美しさはさることながら、多数のエピソードも交えつつ、原石がどのようなプロセスで生成され、どのような場所で発見されるかに特に力点を置いて説明しています。博物館で大切に保管しているものなど、希少価値の高い宝石も見ることが出来ます。

さらに、美しい写真とイラストに併せて、石にまつわる様々な歴史上のエピソードや人々の信仰が折々紹介され、世界歴史のエッセンスを辿ることが出来ます。

著者がイギリスをベースとした地質学者であることから、掲載する写真、イラストおよび記述には多少地域的な偏りがあります。翻訳版では、本文スペースに

ゆとりがある場合には、青木氏が日本の代表的な産地を追加記入などして、日本の読者が理解しやすいようにしています。巻末には、専門的用語の解説が付記されており、読者の理解の助けとなります。

著者及び翻訳者に通ずる心は、石を通して、宇宙や地球の成り立ち、人類の歴史を壮大に把握し、人類と地球科学との普遍的な関わり合いを、文系・理系の垣根を越えて広く伝えたいという熱意ではないかと思います。

本書は、これから地球科学を学んでみたいと思う方には、是非お勧めしたい本です。また、岩石学・鉱物学など地球科学の素養が既にある方にとってもお勧めです。なぜなら、本書を通して、研究方法の原点でもある標本観察に視点を置くことによって、自らの研究の学問的位置付けを再認識出来るとともに、さらに研究対象の視野を広げられるからです。個人的には、本書の美しい写真を見ていると、感覚が無意識に刺激され、新たな研究意欲がかき立てられます。

(地質情報研究部門 清水 徹)